

もっと知りたい 福生市の史跡と文化財（2）

ガイドマップ「史跡と文化財」では取り上げていませんが、より知っていただきたい文化財について紹介しています。

ながさわいせき

長沢遺跡（縄文時代中期の遺跡）

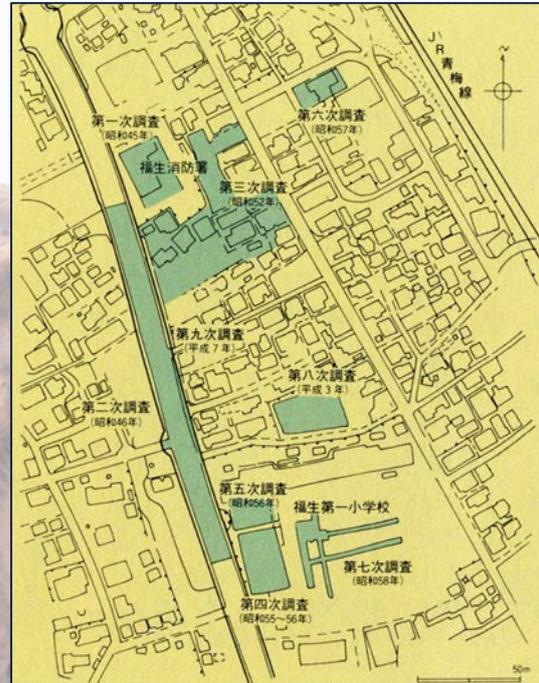
福生市内には 19 か所の遺跡が確認されていますが、その中でも長沢遺跡は市内最大の縄文遺跡で、福生第一小学校から福生消防署にかけてひろがり、約 5 万㎡の面積をもつと推定されています。

段丘の崖には近年まで堂川^{どうがわ}と呼ばれる豊富な湧水があったことなどから定住に適した環境であったと思われ、約 5,000～4,000 年前の 1,000 年間にもわたり集落が営まれていました。

長沢遺跡の住居跡

過去の 9 回の発掘調査の中で約 40 軒の住居跡が発見されていますが、これらは中心部を空白地としてそれを取り巻くドーナツ状に配置されています。

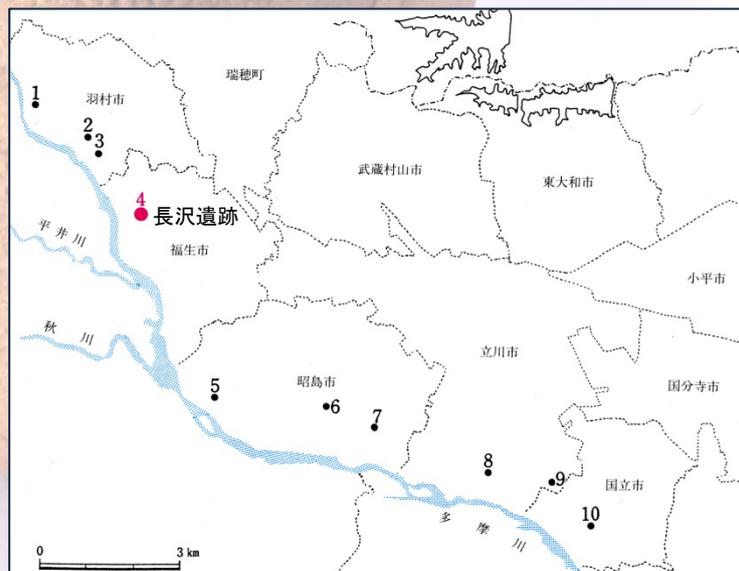
これらの住居跡はすべてが同時期のものではなく、長沢遺跡が存続した約 1,000 年の間に分布したもので、当初は中心の空白地の南寄りから建てられ始め、だんだんと北寄りに移動していったようです。



長沢遺跡の過去の調査地点

多摩川中流域の周辺集落

長沢遺跡周辺の多摩川沿岸でも、同時期に多くの集落の跡が確認されています。農耕ではなく採集や狩猟によって食糧を確保する縄文時代において、集落がこれだけ近接していることから、大変自然環境に恵まれていたことが想像できます。



多摩川中流域左岸の縄文時代中期の主要遺跡

発行・問合せ 福生市郷土資料室（042-530-1120）
福生市熊川850-1（中央図書館内） 開館時間 10:00～17:00
※月曜休館（月曜日が祝日の場合は翌火曜日）
<http://www.museum.fussa.tokyo.jp/>

もっと知りたい 福生市の史跡と文化財（2）

ガイドマップ「史跡と文化財」では取り上げていませんが、より知っていただきたい文化財について紹介しています。

長沢遺跡の出土遺物

長沢遺跡では、昭和 45 年から平成 8 年まで合計 9 回の発掘調査が行われており、土器や石器など様々な遺物が出土しています。

土器の形式は装飾性に富んだ文様や、^{とって}把手などに人面や動物の姿をあしらうなど、原始美術の一つの頂点を表すとされる「勝坂式土器」が中心で、他には「加曾利 E 式土器」なども発掘されています。



深鉢型土器【勝坂式】
(8 次調査出土)



人面把手【勝坂式】
(2 次調査出土)



蛇体把手【勝坂式】
(6 次調査出土)



装身具
(8 次調査出土)



有孔罌付き土器【勝坂式】
(8 次調査出土)



炉体土器【加曾利 E 式】
(1 次調査出土)

勝坂式土器と加曾利 E 式土器

縄文土器といっても年代や製作地により様々な違いがあり、器形や文様などの特徴によって様々な形式に分類されます。

福生周辺で見られる縄文時代中期の土器は、主に前半が勝坂式土器と呼ばれるもので、後半が加曾利 E 式土器と呼ばれるものが出土しています。勝坂式土器は、はでな把手や立体的な装飾に富んでいるものが多く、長沢遺跡でも人面把手や蛇体把手などが見つかっています。加曾利 E 式土器は勝坂式土器に比べ装飾などが少なく、渦巻きの文様が特徴です（写真では炉体土器が加曾利 E 式土器）。

このような土器の特徴を分析した結果、長沢遺跡は縄文時代中期の約 1,000 年にわたって集落が営まれていたことがわかっています。